



令和3年度 あさか女と男セミナー報告書

自宅で学べる！ジェンダー＆ダイバーシティ講座

色とりどりのわたしたち
～ひとりひとりの個性をいかす～



主催：朝霞市 企画・運営：あさか女と男セミナー企画・運営協力員



はじめに

本市では、「男女の輪が素敵な朝霞をつくる～男女平等社会をめざして～」を合言葉とし、男女平等に係る活動を支援する総合的な拠点施設である、それいゆぷらざ(朝霞市女性センター)を中心に、さまざまな施策を進めています。

「あさか女と男セミナー」は、男女平等に関する情報を提供するとともに、その学びを通じて、参加者一人ひとりの男女平等意識を高め、性別にかかわらず、その持てる力を発揮し、社会や地域で活躍できる人材育成を目的に、公募による「あさか女と男セミナー企画・運営協力員」と協働して毎年度開催しています。

今年度のテーマ『色とりどりのわたしたち～ひとりひとりの個性(カラー)をいかす～』は、「誰もがありのままの自分らしく、安心して暮らせるまちを目指す講座にしたい」というメッセージを込め、セミナー企画・運営協力員会議で決定しました。

また、今年度は、本セミナー初の試みとして、オンデマンド動画配信(市公式 Youtube による申込者限定公開)により、全3部の講座を実施いたしました。

感染症対策として安心して受講できる環境、また会場に足を運ぶことが難しい方にも気軽にご参加いただけるような学びの場を提供したい、という思いで取り組みました。

魅力的な講師陣の皆さまにご講義いただき、受講者が、自分自身への気づきや他者を理解するためのヒントを得られるような講座となったのではないかと思います。

この報告書が、より多くの市民の方々の目に留まり、誰もが性別に関わらず活躍できる男女平等社会の実現に向け、より一層理解を深めていただく一助となれば幸いです。



それいゆぷらざ(朝霞市女性センター)

— 目 次 —

第1部	安心・快適・防災術！ ～日々の暮らしに防災を～ 講師／アウトドア防災ガイド あんど う りす さん	 1
第2部	女子高生になれなかった少年が今思うこと ～みんな多様でみんないい～ 講師／作家・甲南大学非常勤講師 佐倉 智美 さん	 3
第3部	スポーツ界における男女平等 ～元女子ラグビー日本代表が語る～ 講師／女子ラグビー日本代表チームディレクター (公財)日本ラグビーフットボール協会副会長 浅見 敬子 さん	 5
受講者アンケート集計		7
ちらし		11
あさか ^{ひと} 女と男 ^{ひと} セミナー企画・運営協力員の感想		13

＊この報告書は、「あさか^{ひと}女と男^{ひと}セミナー企画・運営協力員」が作成しています。

協力員レポート

第1回 「 安心・快適・防災術！～日々の暮らしに防災を～」

講師：アウトドア防災ガイド あんどうりす さん

プロフィール

阪神淡路大震災の経験とアウトドアスキルを活かし、日常にも役立つ防災情報を紹介。生きる知恵が得られると好評で、口コミで全国に広がり、講演は毎年100回以上。新聞連載やテレビ出演、FM ラジオパーソナリティなどで、アウトドア防災を周知している。

著書：「家族の笑顔を守る暮らしの知恵 りすの四季だより」（新建新聞社）他

○講座企画への思い

毎年のように台風や地震などの大きな自然災害があるため、一人一人が、すぐ実践できるような防災知識を身につけることが必要ではないかという思いがありました。また、避難所など防災の現場においては、男性がその運営の担い手となる場合が多いのが現状ですが、誰もが安心・安全に過ごせるためには女性の参画が必要であることを知り、性別を問わず防災への意識を高められるような講座を実施したいと考えました。

○内容

- ・避難所におけるプライバシーの確保や性暴力対策
- ・防災における意思決定・現場への女性の参画
- ・自宅を安全に・・・避難所・避難場所以外の安全な場所を確保する
- ・自分の身を守る行動とは？ハザードマップや天気予報の活用
- ・アウトドア用品や日用品の活用、備蓄のアイデア

○感想

講師の方の優しく聞き取りやすい口調で、イラストや写真を見ながらわかりやすく学べました。また、具体的な防災アイデアがたくさん出てきましたが、動画を止めてメモすることもできたので便利でした。

これまで体育館等の避難所は仕切りがない場合も多く、授乳やプライバシーの確保が大変だったのが、コロナ禍で感染症対策として急速に整備が進んできているということを初めて知りました。

避難所では、周りで性暴力に遭っている人がいても見て見ぬふりをする傍観者がいるということは、とても驚きでした。被災時には性暴力・性犯罪が多発するという事実を認識し、「暴力を許さない」意識を浸透させる必要があると思いました。

災害対策のために家具を固定して生じた賃貸住宅の傷について、公営住宅では原状回復義務が免除されるように変わってきていると知り、これが全国的にもっと広がればいいなと思いました。

このような知識は、自分だけではなく、まわりと共有すること、その積み重ねによって災害に強い地域がつくられていくのではないのでしょうか。家族はもちろん、ママ友やご近所の方とも、避難時にとるべき行動や避難場所の確認など、常日頃から「防災」の話をしていきたいと思います。

《受講者の声》

- ・避難所での性暴力について、加害者だけでなく傍観者も問題であり、被害を見つけたら積極的に行動を起こすことが必要であることを痛感しました。また、被災地では当事者の意見をよく聞く、ということに共感しました。
- ・ジェンダーの視点が明確だと思います。震災の経験から、避難所でのプライバシー空間の確保や、性被害を防止する態勢づくりに言及されていました。講師の子育ての経験を生かして、普段の暮らしの視点で可能な工夫を提案されていました。
- ・年間100回以上の講演を実施されていることが頷ける講演でした。「視聴者が聴きたい内容」を「平易」に解説していました。さっそく、講師の著書を図書館で借りてきました。
- ・あらゆる年齢層に理解出来るようかみ砕いて、詳細に説明されており、非常に参考になりました。
- ・東日本大震災の際のトイレの状態を見て、大きな衝撃を受けました。「災害時のトイレの工夫」についてもっと認識が広まるといいなと思います。

《講義の様子》

自宅で学べる！ジェンダー＆ダイバーシティ講座「色とりどりのわたしたち～ひとりひとりの個性をいかす～」

第1部 「安心・快適・防災術！
～日々の暮らしに防災を～」

講師：アウトドア防災ガイド
あんどう りす さん

配信期間：令和4年1月14日（金）～1月31日（月）

主催／朝霞市 企画・運営／あさか女と男セミナー企画・運営協力員



色とりどりのわたしたち

安心・快適・防災術
日々の暮らしに防災を

アウトドア防災ガイド
あんどうりす



協力員レポート

第2回「女子高生になれなかった少年が今思うこと

～みんな多様でみんないい～」

講師：作家・甲南大学非常勤講師 佐倉 智美 さん

プロフィール

幼いころから自分の「男」という性別に違和感を覚える。高校の社会科講師や塾講師などを務めつつ、社会における性別役割分業や性差別、そして性別そのものへの疑問をつのらせ、その後、社会的・文化的性別を「女」へと転換する。作家、大学での講義、セミナーや研修などの講師としても活動。

著書：「性別解体新書」（現代書館）、「女子高生になれなかった少年」（青弓社）他

○講座企画への思い

最近、「LGBTQ」はメディア SNS 等で取り上げられているので何となく言葉は知っていましたが、詳しく理解はしていませんでした。せっかく協力員になれたので、LGBTQ の当事者であり研究者でもある講師の方からお話を伺いたいと思い、この企画をしました。

○内容

- ・セクシャルマイノリティの日常生活には、どんな生きづらさがあるか
- ・LGBTQ とは
- ・誰もが多様で複雑な「性」を持っている
- ・「好き」の多様性
- ・あらゆる人が生きやすい社会のために、どのような思考で日常を送ればよいか

○感想

関西弁でのお話は、著書「明るいトランスジェンダー生活」のタイトル通りリラックスしてお聴きできました。朗読劇風な高校生活の下校風景は情景が想像しやすく、心情をより理解する手助けになりました。

セクシャルマイノリティ（性的少数者）は子ども時代から思春期、就職、社会人になっても、また、希望の性に変えた後にも困難は付きまとうという現実を、実体験を交えて教えていただきました。性的指向に関する世界地図の解説で、同性愛者が死刑になる国もあるということには、とても驚きました。

セクシャルマイノリティの性のあり方は LGBTQ 以外にもあり、そもそも私たち一人ひとりが多様な性を持っているということです。男性か女性かというのは実は意外と曖昧な解釈であることや、「好き」の数だけ「好き」の種類があるということ、具体的な事例を交えてわかりやすく解説していただきました。

性別よりも、ありのままのその人を認め合えるようになれば、もっと生きやすくなるのではないかな。この理想を踏まえて、現実の具体的な問題を皆で考え、知恵を出し合って対処し解決していくことで、誰もが自分らしく生きられ、認め合える社会に近づくのではないかなというお話が心に残りました。

セクシャルマイノリティの方と同じ場所、時間を共有したときは、LGBTQ に当てはまるのか？使ってはいけないワードは？などを気にして詮索するよりも、「あなたがあなたであることは何も間違っていない」を軸にありのままのその人を認める気持ちで接していけるようになりたいと思いました。

《受講者の声》

・講師の口調も穏やかで、受け入れやすい内容でした。日々変化する感覚的な見方が、より具体的に表現されていたと思います。

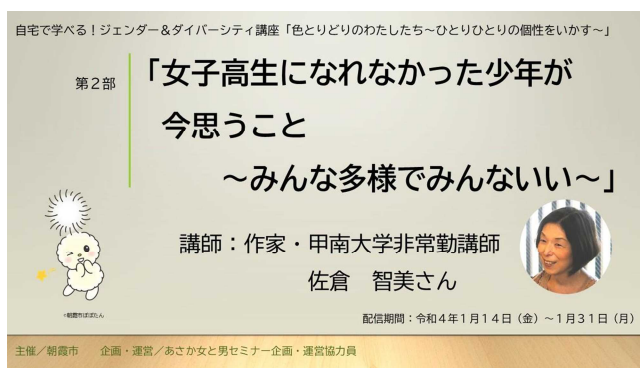
・色々な方がいることを知り、これまでの自分の考え方を見直す、いいきっかけとなりました。

・性の多様性について、実際とその根底にある事柄とを分かりやすく伝えられていました。今まで性の多様性の捉え方が漠然としていたが理解でき、講師の考え方に共感した上で、他者にも伝えられるように思えました。

・性を二元化した社会での生きづらさを個人の問題にしてきた社会。多様性は個人を尊重することから、と改めて足元から見つめたいと思います。

・こどものおもちゃや服など、まだまだ「男の子用」「女の子用」で分けて売られていることもあり、保護者側の意識も固定的になりがちなので、気をつけていきたいと思います。

《講義の様子》



協力員レポート

第3回 「スポーツ界における男女平等～元女子ラグビー日本代表が語る～」

講師： 女子ラグビー日本代表チームディレクター、
(公財)日本ラグビーフットボール協会副会長 浅見 敬子 さん

プロフィール

東京都八王子市出身。日本体育大学入学時に「ラグビー」と出会う。2年目で日本代表に選出され、その後、プレイヤーだけではなく、コーチング、マネジメントなど、さまざまな経験をラグビーで培い、たくさんの出会いや国内外での経験を得て、現在は日本の女子ラグビーの普及・育成・強化のすべてに関わっている。

○講座企画への思い

男女の不平等はスポーツの世界にも存在し、「女性は男性と比べ、できる競技が限られる」と認識されてきたように思います。ラグビーについても「男性がやるもの」と思われがちですが、女子ラグビーは世界的にも急速な広がりを見せています。近年、世界の強豪国と拮抗するようになってきた日本女子ラグビーについて知り、スポーツという親しみやすいテーマを通して、性別に関わらず活躍できる社会について考えられるような講座を実施したいと考えました。

○内容

- ・日本と世界における女子ラグビーの普及
- ・日本女子代表の国際的な活躍 ～五輪とワールドカップ～
- ・黎明期の先輩方の貢献
- ・女性の活躍と女子ラグビー界の今後の展望

○感想

講師はラグビー選手としては小柄な方ですが、だからこそ、多くの女性に夢を与えられる人だと思いました。伝えたいことがたくさんあるという思い、大きな熱意を感じました。動画撮影に際して朝霞市まで足を運んでいただき、お会いできて本当に光栄でした。

2016年に「五輪における男女共同参画」の視点で、男女共に活躍できる五輪競技として7人制女子ラグビーが選ばれたことは、女子ラグビー界にとって大きな転機になったということです。

現在の日本女子ラグビーの状況としては、欧米女子に当たり負けしないだけの、大きさ、強さを持った選手が育ってきているというお話がありました。今はまだ他競技から運動能力の優れた選手を転向させて強化を行っている状態ですが、競技人口の拡大とともに、幼少期からラグビーをして育った選手が核となっていく展望が持てるそうです。ここに至るまでの「生みの苦しみ」についてもお話があり、先輩方の貴重な記録動画には勇気づけられました。

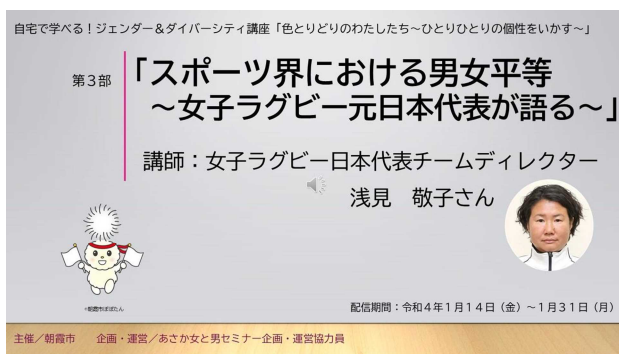
スポーツには、競技を通じて、闘った者の間でのみ生まれる友情の素晴らしさがあると思います。これは、男子だけでなく女子スポーツでも全く同じで、女子ラグビーにおいても、ノースайдとなって、異なる国の選手同士が、たとえ言葉はさほど通じなくても、長年の友達であるかのように交流できるというお話があり、とても素敵だと感じました。

私自身、今後は、女子ラグビーの試合を是非観戦したいと考えています。日本女子ラグビーの盛り上がりを通して、女性の活躍も更に進んでいくことを願っています。

《受講者の声》

- ・今のスポーツ界はこんなにも多様性にあふれているのだなあと、力強いパワーを感じることが出来ました。ラグビーを特に注目して応援します。
- ・スポーツの種目は男女の区別がなくなっている現状を垣間見ました。レスリングやボクシング、柔道などの格闘技も女性がやっています。講義は、ラグビーを通してのものであったが、女性がやっても何の疑問もないのが今の常識だと思います。女性もできるスポーツとして一般に認知されるまでに、さまざまなご苦労があったことが理解できました。
- ・スポーツ界のジェンダーでは、例えば、女性選手に要求される体重制限や競技ウェアの是非、セクハラ、性被害なども女性が安全にスポーツをする環境が問われていると思います。結婚、子育てとスポーツの継続が困難なもの日本の課題です。
- ・今まであまり知らなかった女子ラグビーの世界に触れ、その格好良さに引き込まれました。好きなことに夢中になることの大切さ、それを子どもたちにも伝えていくことで性別にとらわれずに個性を尊重にする社会につながるのではないかと思います。

《講義の様子》



自宅で学べる！ジェンダー＆ダイバーシティ講座

色とりどりのわたしたち～ひとりひとりの個性をいかす～

受講者アンケート集計結果 回答件数:27 名

Q1. あなたの年代を教えてください。(必須)

70 代以上	60 代	50 代	40 代	30 代	20 代	19 歳以下
1 名	14 名	5 名	4 名	2 名	0 名	1 名

Q2. あなたの性別(性自認)を教えてください。(任意)

性別	女性	18 名	男性	9 名	その他	0 名
----	----	------	----	-----	-----	-----

Q3. 受講した動画を選択してください。※複数選択可(必須)

1 部	2 部	3 部
22 名	21 名	18 名

Q4. なぜ、受講しようと思いましたか。※複数選択可(必須)

- ①テーマ・内容に興味があったから
- ②講師の話を聞きたかったから
- ③前にも参加したことがあったから
- ④動画視聴で気軽に受講できたから
- ⑤その他

①	②	③	④	⑤
21 名	10 名	5 名	8 名	1 名

Q5. Q4 で「⑤その他」と回答された方は、詳細をご記入ください。

- ・大変勉強になりました。知ることの大切さを改めて再認識しています。
- ・自分も防災講話、リスクマネジメント講話を行っており、参考にするために視聴しました。

Q6. 受講後の満足度に近いものをご選択ください。(必須)

満足	やや満足	ふつう	やや不満	不満
21 名	3 名	1 名	2 名	0 名

Q7. 本セミナーに対するご意見・ご感想などを自由にご記入ください。(各回を受講してのご感想や全体を通して感じたことなど)

・今回は、コロナ禍でリモート講座になったのかな？と思うのですが、個人的には時間の調整がしやすく、受講期間も長かったので躊躇なく申し込むことができました。対面とリモート、それぞれの良さがあり、このコロナが終息した後にもリモート講座を開催していただき、参加者の状況で受講方法を選択できると、せっかく企画された講座を多くの方に提供できて、また、講座の受講率も上がってよいのでは？と思いました。ありがとうございました。

・オンデマンドだと場所や時間に縛られないので、参加しやすかったです。

・新型コロナウイルス感染拡大に備え、オンラインセミナーにしたのはいいと思います。

・多くの方がこういった動画内容を視聴していくことから、男女平等な生活が実現できるのではないのでしょうか。

・3回受講しました。各回聴きごたえのある内容でした。企画、運営されたスタッフの皆さん、ありがとうございました。

・男性と女性、いろいろな方の垣根をなくし、みんなが社会から平等な恩恵を受け、楽しく幸せな日々が送れるようにできれば…。

・動画配信のセミナーが自身に合っているので、集中して受講できました。

・市外の私までもが参加させていただけてありがたく思いました。心より感謝いたします。

・内容が濃い。ためになった。

・それぞれの動画が約1時間に統一されていたので、集中力の観点からもちょうどよい時間配分だと思いました。特に、スポーツ界における男女平等については編集も違和感なくされており、見やすかったです。通常業務に加え、作業時間など時間的な問題も多々あったと思うのですが、成果としての今回の一連の講義は、たいへん有意義なものでした。今後もこのような機会があれば、視聴させていただきたいと思いました。

・YouTubeだと、いつでも見られてよいと思う反面、会場の雰囲気や他の参加者の反応や、もしかしたら他の知らない参加者と、感想などその時だけでも話せるといいなと思うので、会場が好きです。

(※各回の感想については、協力員レポート内に掲載しています。)

8. 今後、どのような講座があれば受講したいと思いますか。※複数選択可

- ①男女共同参画(全般) ②SDGs(目標5:ジェンダー平等の実現)
 ③男性の家事・育児・介護への参画 ④性の多様性
 ⑤男女共同参画の視点から考える防災⑥ワーク・ライフ・バランス
 ⑦女性の政治への参画 ⑧パートナーとのコミュニケーションのコツ
 ⑨DV(配偶者等からの暴力)防止 ⑩デートDV(交際相手からの暴力)防止
 ⑪性暴力・性犯罪防止 ⑫その他

①	②	③	④	⑤	⑥
8名	13名	7名	8名	7名	9名
⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫
4名	7名	3名	3名	3名	3名

9. 問8で「⑫その他」と回答された方は、詳細をご記入ください。

- ・防災については、もう少しピンポイントで町内会ごとに広めていけるといいと思います。
- ・リスクマネジメント
- ・女性の経済的自立、仕事、子育てや介護との生活支援等

10. セミナーの受講方法について、一番参加しやすいと感じるものをご選択ください。

(必須)

- ①会場での受講 ②オンライン(ZOOM 等)
 ③オンデマンド(Youtube 動画配信) ④その他

①	②	③	④
5名	2名	20名	0名

11. 問10で「④その他」と回答された方は、詳細をご記入下さい。

※回答者なし

- ・市公式Youtube
による限定公開
- ・手話通訳入り動画有

ひとりひとりの個性をいかす

わたしたちの色とりどりの

自宅で学べる！
ジェンダー＆
ダイバーシティ講座

「男らしく」「女らしく」ではなく、
「私らしく」生きるための学び。

申込/ 令和3年12月1日(水) ~ 令和4年1月7日(金) 配信/ 令和4年1月14日(金) ~ 1月31日(月)

第1部
(約60分)

「安心・快適・防災術！ ～日々の暮らしに防災を～」
「身近なものが防災グッズになる！？楽しくてすぐ試したくなる、暮らしを豊かにする防災とは？阪神・淡路大震災の経験とアウトドアの知識を持つ講師から、男女共同参画の視点を取り入れた防災のヒントを学びましょう。
講師：アウトドア防災ガイド あんどう りす さん

第2部
(約60分)

「女子高生になれなかった少年が今思うこと～みんな多様でみんないい～」
「普通」とは何か？ありのままのお互いを認め合うために必要なこととは何か？LGBTQ当事者であり、関西のノリの中で育った講師によるユーモアあふれるお話から、誰もが「女」や「男」といった枠組みをこえて自分らしく生きられる社会について考えてみましょう。
講師：作家、甲南大学非常勤講師 佐倉 智美 さん

第3部
(約60分)

「スポーツ界における男女平等～元女子ラグビー日本代表が語る～」
「ラグビーは危険なスポーツであり、男性がやるもの」と思っていないですか？現在日本女子ラグビーのディレクターとして活躍されている講師の体験から、性別を問わないスポーツの楽しさやすばらしさ、新しい時代のスポーツのあり方について考えてみましょう。
講師：女子ラグビー日本代表チームディレクター、
(公財)日本ラグビーフットボール協会副会長 浅見 敬子さん

要申込！
詳しくは裏面へ

講師プロフィール



第1部：あんどう りす さん

阪神淡路大震災の経験とアウトドアスキルを活かし、日常にも役立つ防災情報を紹介。生きる知恵が得られると好評で、ロコミで全国に広がり、講演は毎年100回以上。新聞連載やテレビ出演、FMラジオパーソナリティなどで、アウトドア防災を周知している。

著書：「家族の笑顔を守る暮らしの知恵 りすの四季だより」（新建新聞社）他



第2部：佐倉 智美 さん

幼いころから自分の「男」という性別に違和感を覚える。高校の社会科学講師や塾講師などを務めつつ、社会における性別役割分業や性差別、そして性別そのものへの疑問をつのらせ、その後、社会的・文化的性別を「女」へと転換する。作家、大学での講義、セミナーや研修などの講師としても活動。

著書：「性別解体新書」（現代書館）、「女子高生になれなかった少年」（青弓社）他

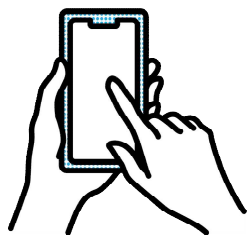


第3部：浅見 敬子 さん

東京都八王子市出身。日本体育大学入学時に「ラグビー」と出会う。2年目で日本代表に選出され、その後、プレイヤーだけではなく、コーチング、マネジメントなど、さまざまな経験をラグビーで培い、たくさんのお会いや国内外での経験を得て、現在は日本の女子ラグビーの普及・育成・強化のすべてに関わっている。2019年～アジアラグビー協会女子委員会委員

申込～動画視聴の流れ

1. 申し込む

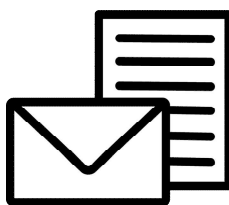


・市ホームページの申込フォームに必要事項を記入し、送信します。

こちらのQRコードからもアクセス可能⇒



2. メールが2通届く



・申込完了のメール（自動送信）が届きます。届かない場合はご連絡ください。

・動画配信日までに、申込時に登録したメールアドレスに、動画サイトのURLが届きます。

3. 動画を視聴する



・全3部すべての動画を視聴できます。また、動画配信期間中は何度でも視聴できます。

・視聴後は、動画の説明欄に記載のURLからアンケートに御協力ください。

注意事項

※メールアドレス及びYoutube動画を視聴できる機器が必要となります。

※通信にかかる費用は受講者の負担となります。

※URLの転送・転載、動画の録画や第三者への共有等は固く禁止いたします。

お問い合わせ：朝霞市女性センターそれいゆぷらざ

※火曜日～日曜日 9時～17時

TEL:048-463-2697

E-mail:soreiyu@city.asaka.lg.jp

あさか女と男セミナー企画・運営協力員感想

以前から、あさか女と男セミナーや協力員について、広報やチラシ等で知っており、興味はありましたが、具体的に自分がどのように参加していけばいいのかイメージを持てずにいました。今回一歩を踏み出してみて、性別や年代も違う他の協力員の方や、アドバイザーの方、市の職員の方との会議を重ねるうちに、自分にとっては今まで全く気にしていなかったことや固定観念が、他の方はこう考えているんだと気付きがあり、参加してみてよかったと感じています。

協力員 K.S (第1部担当)

オンライン講座は初めてのことでしたので、暗中模索の状態からなんとか実現できました。この経験により、これからの高齢社会(会場に出向けない方)、子育て中の忙しい世代、朝霞市以外の方々にも届けられ、また、物理的な距離を気にせず講師依頼が可能になったことは、今後のセミナー企画・運営にとってもプラスになったと感じました。

セミナーアドバイザー M.O(第2部担当)

講師の人選の段階からいろんなアイデアが飛び交って、女性センターが対象とするテーマは多岐に渡ることを認識しました。動画撮影をする中での講座の司会は初体験でしたから、学ぶことが多かったです。感染症の収束とは無関係に、遠距離の方も容易に楽しめるように、動画配信を続けるのがいいかなと思います。朝霞を発信地にして、日本全国のみならず、海外にいる方に対しても啓発活動ができればと思います。

協力員 N.S(第3部担当)

令和 3 年度

あさか女^{ひと}と男^{ひと}セミナー報告書

発行年月 令和 4 年 3 月

発 行 朝霞市

編 集  朝霞市女性センター
それいゆぷらざ

〒351-0016 埼玉県朝霞市青葉台1丁目7番1号

電 話 048-463-2697

FAX 048-463-0524

E-mail soreiyu@city.asaka.lg.jp